

門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和5(2023)年6月20日

第20号

編集・発行：校長 上甲 尚

2年生「たけのこ」の方と交流しました



2年生は16日(金)の5・6時間目、知的障がいのある方が通所する施設「社会福祉法人 仲間の家 たけのこ」(門真市岸和田)の方々と交流行事を行いました。事前に各クラスで「福祉」について勉強してから、当日を迎えました。去年の11月末、期末テスト終了後、「たけのこ」と方と合同で地域の清掃活動に取り組みましたが、今回はさらに発展した取り組みになりました。

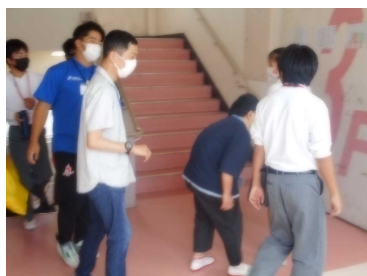
「たけのこ」に通所している方の多くは、皆さんと同じように門真市で生活されています。門真の小学校、中学校を卒業されています。四中の卒業生の方があいさつしてくださいましたね。最後のあいさつで触れましたが、私(上甲)がかつて受け持ったり、関わった卒業生が3人いました(二中の卒業生2人、一中の卒業生1人)。もう40年から30年近く前に中学校を卒業した人たちです。彼らの中学校時代のこと、一生懸命だった保護者の方(お母さん)のことを思い出し、感無量の思いになりました。



事前に学代の人たちが「たけのこ」を訪問し、打ち合わせを行い、各クラスで考えた「遊び」を中心に、グループ毎に分かれて交流を深めました。「自己紹介」から始まり、「クラス対抗玉入れ」「スプーンリレー」「宝探し」など、楽しく交流しました。最初は少し戸惑いもあったと思いますが、だんだんと打ち解け、笑顔が見られるようになりました。優しい子が多いなと嬉しく思いました。

門真市に在住しておられる障がいのある方々とこのような形で交流する機会を持つことは、とても意味のあることだと思います。

社会を構成しているのは、多様性に富んだ人たちです。性別や国籍、肌の色、信仰する宗教の違いや障がいの有無にかかわらず、お互いを認め合い、尊重し、排除せずに共生する社会を「インクルーシブ社会」といいます。「インクルーシブ」とは「包括」という意味です。「インクルーシブ社会」とは、「すべての人々が尊重し合い、支え合う共生社会」ということです。障害のある、なしに関わらず、誰もが安心して暮らすことができる社会でなければなりません。



かつて、障がいのある人は社会や学校から排除されたり、分けられていた時代がありました。保護者の方々や支援者の方々の地道な運動があって、様々な法律が整備され、現在に至っているのです。みんな同じ人間です。誰もが、人間として当たり前、幸せな人生を歩んでいく権利を持っています。同じ地域に住む「仲間」として、自然に接することができればいいですね。学代の皆さん、2年生の皆さん、本当にありがとう。

1年生「人権講演会」を行いました



1年生は13日(火)の4時間目、門真市人権擁護委員の方々にお越しいただき、「人権講演会」を行いました。それぞれの違いを認め合い、「人権が尊重される社会とは」について学びました。

「秋桜(コスモス)の咲く日」というビデオを鑑賞し、アスペルガー症候群という発達障害を抱えながら施設で懸命に働く青年と周りの人たちとの関わりから、「障がいとは」「共に生きるとは」「普通とは」などについて

考えました。

続いて人権擁護委員の方から、「人権は守られなければならない」「人権擁護委員の仕事内容」などお話がありました。人は誰もがみんな、ひとりの人間として、命が守られ、社会の中で幸せに生きる権利を持っています。あなたもわたしも、誰もがみんな、生まれたときからずっと持っている、大切な権利が「人権」なのです。だから差別やいじめは重大な人権侵害行為なのです。絶対にしてはいけません。「人権」について考えることは、「生き方」「生き様」について考えることなのです。



3年生 修学旅行の「壁新聞」づくり



16日(金)、前日までの修学旅行の疲労がまだ残る中、3年生は「壁新聞づくり」を行いました。各グループに分かれてテーマ毎に作成しました。

みんなやや疲れた表情ながらも、和やかな雰囲気で作業をしていましたね。完成した「壁新聞」は、7月の三者懇談中に廊下に掲示する予定です。完成を楽しみにしていますよ。保護者の皆さん、来校の折にぜひご覧ください。

ここ数日、最高気温が30℃前後まで上昇し、非常に暑い日々が続いています。どうやら「梅雨の中休み」のようです。規則正しい生活と水分補給を心がけ、「熱中症」にならないように気をつけましょう。教室はエアコンをつけていますが、感染対策として「換気」は必須です。